

2019年度 我が校の学ぶ力向上策(実施計画)

【市町 目標】

- ともに学び、ともに育ち、ともに生きる
- 豊かな心と健やかな体を育む
- 郷土への誇りを持ち、世界に発信できる人を育てる

【学校 目標】

- ふるさとを愛し、共に磨き合い たくましく生きる子どもの育成
～豊かな心で学び合い意欲的に挑戦し続ける学校

【現状と課題】

視点1にかかわって ○各教科等の学習内容は概ね理解できている児童が多い。ただ、目的に応じて必要な情報を読み取ったり、それらをもとに、文章に表したりすることが苦手である。

視点2にかかわって ○家庭での読書時間が少ない傾向が見られる。

視点3にかかわって ○組織的対応や子どもと十分に話し合う時間の確保が難しい。意欲的に資質向上ができる研修や研究の充実が求められている。

取 組		
視点1	視点2	視点3
学びを実感できる授業づくり	学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり	子どものために一丸となって取り組む学校づくり
<p>【取組事項】 効果的な学び合いによる授業改善を図る。(G-UPプロジェクト) ○課題解決型の学習を推進する。 ○振り返りを大切に授業改善に取り組む。(内言の外言化) ○基礎学力を向上する。特に、ラララ忍ゲー(家庭学習)の継続・充実を図る。 ○ICTの効果的に活用し、学び合いが深まる授業を創る。</p>	<p>【取組事項】 居心地のいい学級づくりを行い、自他を大切にす友だち思いの児童を育てる。(ここのはプロジェクト) ○人権の日(月1回設定)を中心に、各学年ワークショッププログラムの実践と「やさしさ集会」の充実を図る。 ○習慣化できる読書活動とあいさつ運動を推進する。 ○心に響く道徳教育の実践を行う。また、学びの足跡の掲示に取り組む。 ○故郷に根ざした体験活動を推進し、地域から、異年齢の子・大人からも支え合える集団をつくる。また、縦のつながりを意識した取組を行う。</p>	<p>【取組事項】 支え合い・磨き合える教職員が、「授業がよく分かる」学校、「学校が楽しい」と感じる学校をつくる。 ○校内研究・校内研修を窓口に、日々の授業や実践、教材について交流し高め合える集団づくりを行う。 ○児童と教職員、教職員同士、児童同士がゆったりと接することのできる時間と余裕を生み出しを志向する。(「働き方改革」も推進していく。)</p>

その他 取組事項

(すこやかプロジェクト)

- 体力の向上・すこやかタイムの充実と徹底 ・8の字ジャンプ大会 ・相撲大会
- 康教育の推進と実践 ・早寝・早起き・朝ご飯・歯磨き ・あいさつ運動の充実(あいさつの日の設定)
- 安全教育の推進 ・自転車検定の充実

取組の評価

	取組事項	評価指標	評価	
			1回目評価	2回目評価
視点1	算数科等を窓口とし、ICTを活用した授業をとおして、「学び合いで深まる魅力ある授業の創造」に取り組む。	校内研究を中心とした授業(研究授業)をとおした教職員相互の見取りと協議。		
視点1・2	学級(担当)経営案を積極的に活用し、児童を中心に据えた学習・生活両面における見取りを行い、次への取組の具体を考える。	各学級での取組へ常に立ち戻れるよう、積極的な働きかけを行うとともに、児童調査も活用し、学期ごとの定期的な振り返りを行う。目標80%		
視点2	あいさつ運動を積極的に行い、1日のスタートを明るい気持ちで迎えられ、学習に望めるようにする。	週替わりで学級ごとに児童と教職員で朝のあいさつに取り組む、情報交換も定期的に行う。		
視点2	縦割り活動を積極的に取り入れ、それぞれが互いに思いやりの心をもって接することができるようにする。	年間を通して、「縦割りそうじ」に取組み、児童へのアンケートや教師の見取りによる児童の変容をとらえる。		
視点3	各種調査の結果を分析し、今年度の本校児童の現状と変容を探り、PDCAサイクルによる評価と改善を行う。	全国学習状況調査、本校の学習状況・生活状況調査、学校評価を活用する。目標80%		
視点3	0JTR-が-を核として若手教員と経験豊富な教員の学び合い研修(月1回)の実施と校内研修の充実に取り組む。	年間の計画をベースに実施する一方、事前・事後のアンケートにより、ニーズに応じた内容・取組も随時取り入れていく。		

評価:【達成状況 90%以上→A 70%以上89%未満→B 70%未満→C 時期→1回目9月 2回目2月】